（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスきゃんぱす東予

公表日　令和７年　３月　１８日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	個別スペースを設け、場所を活動を分けることで、活動の効率化を図り、集中できる環境設定をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1		児童の下校時間によっては学校に時間調整をお願いする場合がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	日課を個々に分かりやすく提示することで、見通しを持てるようにしている。リラックスできる空間も設けている。	玄関がタイルなので、雨の日滑りやすく危ない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	児童が帰宅後、次亜塩素酸ナトリウムを使用して消毒作業を行い、感染対策に努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別スペース、言語リハの部屋、カームダウン室がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	朝礼や昼のミーティングの際に情報共有や意見交換を行っている。また、自立課題や作業の結果についてはLINEを用いて全職員で情報共有を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	朝礼や昼のミーティングの際に情報共有や意見交換を行っている。課題については迅速に改善策を検討している。	

	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4	事業所外の社員との話し合いの場を持つなどで、意見交換する機会を持っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	新入社員に対する内部研修を行う他、外部研修への参加も積極的に行っている。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	0	7		令和7年3月に公開予定。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	児童発達支援管理責任者と言語聴覚士や理学療法士、保育士、児童指導員で多方面からアセスメントを行い、関係機関からの情報や保護者や本人のニーズも取り入れがら次期の目標設定を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	担当者と児童発達支援管理責任者によるアセスメントと課題抽出の結果を基にケース会議を行い、全職員で最善策を検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	5	1	毎日のミーティングで支援方法の確認と統一を行い、共通理解を促している。また、定期的に支援方法の見直しも行っている。	共有されているが、計画に沿った支援ができているかは不十分さがある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	インフォーマルなアセスメントは日々記録しており、半年に一度まとめている。	フォーマルアセスメントは実施していない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	主に児発管・管理者が実施しているが、月に１度イベント会議を実施し、翌月の週イベントや活動内容について検討している。	

切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	5領域を意識しながら、「こどもがわくわくする活動」の提供を心がけており、わくわくする活動を通して自主性を育んでいきたいと考えている。長期休暇や祝日には普段できないような活動を提供し、常に子供たちが楽しく来所できるプログラムを立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	アセスメントの結果を通して必要な個別活動と集団活動の選択を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	当日の朝礼と午後のミーティングでその日の活動内容や評価重点項目に関する情報共有と、児童に関する情報の申し送りを毎日行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	7	0	支援終了後には支援記録の記入を最優先して行ったり、LINEを使って情報共有を行っている。	時間が取れていない為、職員間での打ち合わせは翌日になる事もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	支援終了後に支援記録の記入を徹底している。その記録をもとに翌日のミーティングで改善策について話し合いを行い、支援の統一を図っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	定期的にモニタリングを実施し、知り得た情報と当事業所での様子からアセスメントを深め、目標の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6	0	自立に向けた取り組みや創作活動、外部での体験活動（地域交流）、余暇活動の全てを組み合わせて活動プログラムの設定を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	スケジュールに「？」のカードをいれ、活動を自己選択できる時間を設けている。また、イベントの参加についても、自己決定を尊重しており、意思表出が難しいお子さんにも表出できる形で意思決定を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0		

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	0	学校との支援の統一や、トラブル発生時の情報共有と対応策に関する話し合いの場を必要に応じて設けている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	0	新規入所児童の利用開始前には各関係機関より情報収集を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	1		利用児童の学校卒業を経験していないが、必要に応じて情報提供を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	0	5		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1	西条市放課後等デイサービス連絡会への参加をしている。責任者、管理者が調整して参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	日々の様子や活動内容についてはLINEを用いて各家庭へ配信している。また、送迎時に伝達、共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		自社でのペアトレ等の機会は設けられていないが、他者の研修案内等をSNS等を通じて発信している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に説明を実施している。	支援プログラムを公開後は、順次面談やモニタリング時に説明を行っていく予定。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	職員が担当児童の意向の聞き取りを行ったり、児発管と児童で話をする時間を設けている。また、ご家族の意向についてはモニタリング時に確認を行っている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6	0	対面で支援計画・支援内容の説明を丁寧に行う他、難しい場合には電話で説明を行った後、同意を得た上で支援を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	面談のみではなく、LINEや電話を使った相談対応も行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	2	今年度は親子参加型の陶芸教室や、BBQ（父親参加）を開催した。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	ご意見をいただいた際には迅速に職員間で情報共有し、改善をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	InstagramやLINEを使用して、活動内容や行事予定の発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6		今後、地域交流も視野にいれていく予定。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	定期的にBCPの見直しを行い、避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		てんかん発作時の投薬については検討中。

非常時等の対応	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	アレルギーのある児童に対しては、事前に入念な聞き取りを行い、医師の指示の基、保護者と情報共有をした上で対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		安全計画の更新を適宜行う必要性あり。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	4	1	安全計画に関して適宜見直しを行っており、必要に応じて取り組み内容の周知を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	事故を未然に防ぐために気になった点については書面で報告し、情報共有を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待防止委員会を設置しており、年に数回研修を実施している。また、権利擁護を常に意識しながら支援を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1		